

山口県下松～柳井地域の領家変成岩の変成分帯

Metamorphic zonation of the Ryoke metamorphic belt in the Kudamatsu-Ynai area, southwest Japan

菅原 雄 [1]; 池田 剛 [2]

Yu Sugawara[1]; Takeshi Ikeda[2]

[1] 九大・理・地惑; [2] 九州大・理・地球惑星

[1] Dept. of earth and planet sci. kyushu Univ.; [2] Earth and Planetary Sci., Kyushu Univ

山口県柳井-岩国地域の中～高変成度の領家変成帯は泥質、砂質変成岩を用いて、北から南に黒雲母帯・白雲母-堇青石帯・カリ長石-堇青石帯・ザクロ石-堇青石帯・珪線石-カリ長石帯に分帯されている。本研究では、より西方の下松～柳井地域の変成分帯を試みた。

最も低変成度は黒雲母帯で、調査地域の北西部下松市米泉湖東部～南部に分布する。カリ長石-堇青石アイソグラッドは、ザクロ石-堇青石アイソグラッドは、珪線石-カリ長石アイソグラッドは、それぞれ調査地域北西部下松市鷲頭山頂上南側、調査地域中部光市岩城山頂上南側および調査地域東部柳井市日積三ヶ岳東側と調査地域南西部光市光井千坊山頂上西側、調査地域南西部光市光井千防山頂上東側に定義された。

高変成度であるザクロ石-堇青石帯、珪線石-カリ長石帯は古期領家花崗岩類の分布域内に産する。ザクロ石-堇青石帯は東から西に向かって厚さが薄くなる。柘榴石-堇青石アイソグラッドは変成岩の層構造と斜交し、アイソグラッドは広域的に変成岩の分布の方向とも斜交する。